

# 実績報告書

届出者	住所	東京都新宿区信濃町32番地	氏名	創価学会 代表役員 長谷川重夫
特定事業者の主たる業種		94宗教		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		日蓮大聖人の仏法の本義に基づき、根本の法である南無妙法蓮華經を具現された三大秘法を信じ、御本尊に自行化他にわたる題目を唱え、弘教および儀式行事を行い、会員の信心の深化、確立をはかり、もってこれを基調とする世界平和の実現と人類文化の向上に貢献することを目的とし、これに必要な公益事業、出版事業、平和活動、文化活動、および教育活動等を行う。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2016年 4月 1日～ 2019年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2015 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,259 t-CO <sub>2</sub>	4,666 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,092 t-CO <sub>2</sub>	5,592 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2018年度)	第1年度 (2016年度)	第2年度 (2017年度)	第3年度 (2018年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	-4.1%	-10.0%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	-0.3%	-10.3%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>震災以降、照明の間引き、空調の適温設定、デマンド監視装置の設置など積極的な取り組みにより大幅な節電・省エネを行ってきた。昨年度は省エネセミナーも開催し、より意識を持って省エネ・節電に取り組んできたが、会館の使用頻度が増えたことが増加の原因と考えられる。</p>
---

(2) 推進体制

当職員が中心となり、会員の皆様とともに、会館使用の使用方法を決定。  
また、デマンド監視装置を設置しピークカットなどの節電、省エネに努めていく。

## 実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市江の木町14番11号	氏名	医療法人 蒼龍会 理事長 筒泉 正春
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		腎臓病の治療と透析の専門病院		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2016年 4月 1日～ 2019年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2015 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,587 t-CO <sub>2</sub>	3,691 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,002 t-CO <sub>2</sub>	4,118 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2015年度)	第1年度 (2016年度)	第2年度 (2017年度)	第3年度 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	-5.1%	-2.9%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	-5.1%	-3.0%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

コージェネシステムの活用は行っているが、診療時間帯の延長によりエネルギー使用量が増加している。
---

(2) 推進体制

コジェネの活用。  
夜間に限らず、使用していない部屋の照明・空調の管理。

---

# 実績報告書

届出者	住所	東京都 港区東新橋1-9-1	氏名	ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員兼CEO 宮内 謙
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動体通信事業およびこれに付随する業務等</li> <li>・固定通信事業およびこれに付随する業務等</li> <li>・インターネット通信事業およびこれに付随する業務等</li> <li>・電気通信にかかわる電気通信用品およびシステムの保守、販売</li> <li>・電気通信に関するソフトウェアの製作および販売</li> </ul>		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2016年 4月 1日～ 2019年 3月 31日 (3年間)

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2015 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	60,766 t-CO <sub>2</sub>	56,262 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	70,255 t-CO <sub>2</sub>	64,916 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2018 年度)	第1年度 (2016 年度)	第2年度 (2017 年度)	第3年度 (2018 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	34.0 %	14.6 %	40.3 %
削減率(平準化補正ベース)		34.0 %	15.0 %	41.8 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (下記のとおり)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

原単位(事務所) = 温室効果ガス総排出量(t-CO<sub>2</sub>) / 延床面積  
 原単位(基地局) = 温室効果ガス総排出量(t-CO<sub>2</sub>) / 基地局トラヒック数  
 原単位(NWC) = 温室効果ガス総排出量(t-CO<sub>2</sub>) / 固定又はモバイルトラヒック数、又はその両方のトラヒック数で算出し、寄与度を使用。

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>エネルギー効率のより良い携帯電話サービス用設備への切替・更新が進み、原単位当たりの排出量が減少した。また、昨年度は基地局設備の整理減少等で排出総量は減少したが、基本的に今後も基地局設備の増設が進みエネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量は増加見込みであり、原単位当たり排出量の目標達成に向けて活動を進める。</p>
<p>ネットワークセンターの空調機において、一定速空調機からINV空調機へ一部更新を行い排出量が減少した。基地局において、二酸化炭素排出係数の低い電力会社へ切り替えを進めており、排出量が減少した。</p>

(2) 推進体制

- ・ 人事総務統括を委員長とする会社横断となる環境委員会を設置
  - ・ ISO14001認証体制の維持
-